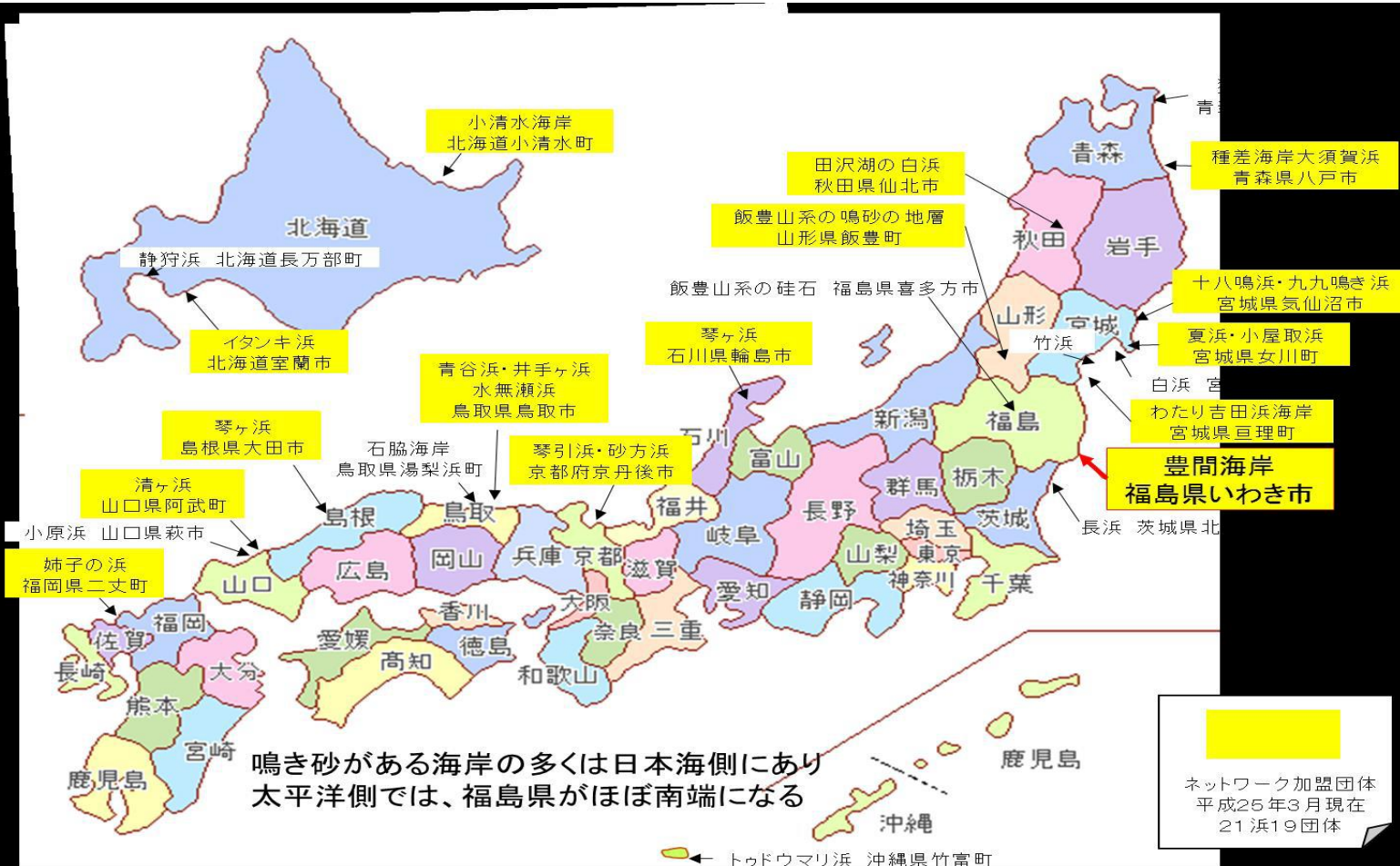


発表者 事務局長 小堀 亨



● 設立のきっかけ

○ 鳴き砂研究がきっかけ

平成8年7月に「鳴き砂並びに、その保全について研究すること」などを目的として設立。かつていわきの白砂青松の砂浜には、多くの「鳴き砂」があったと言われているが、今では景観の素晴らしい豊間海岸のほか数か所に残されている(東日本大震災後状況は変化)。このかけがいのない大自然の遺産である「いわきの鳴き砂」を大切に保存し、次世代の人々に引き継いでいくのが私たちの責任であることを自覚し、調査・研究を始めた。

● 団体の目的

○ 次世代への継承

地域住民と共同で鳴き砂の浜の保護活動を行い、鳴き砂を健全な状態で次世代に引き継ぐこと。

○ 砂を通してコミュニケーション活動

砂絵教室、砂の像づくり、砂場遊びなどを通してものづくりの楽しさ、鳴き砂の微妙な存在をアピールし環境保護の大切さを訴えていく。

・・・ 鳴き砂の問題点

いわきの鳴き砂は、ポケットビーチともいわれ、断片的に存在しているため、発見が難しい。

私たちの思い、考え

●地域の課題

○鳴き砂の浜は減少傾向

全国に20ヶ所あまりの「鳴き砂」の浜がありますが、50年くらい前には60ヶ所位ありました。環境汚染が進んできたのが原因でしょうか。

→ **マイクロプラスチックによる
環境汚染**

○鳴き砂の保護活動が必要

今ある鳴き砂の浜を減らさないように保護活動が必要ですが、化学技術の進歩とともに新たな汚染物質が表れている。

○太平洋側最南端の鳴き砂

いわきの海岸は、太平洋最南端の鳴き砂の浜として貴重な存在であるが、住民の意識は高まっていない。

●目指す団体の姿、地域の姿

① 組織の基盤強化

→ 認定NPO法人を目指す。

② コミュニケーション能力や情報発信力を備えていく。

③ 自団体で解決不可能な社会的課題の対処法をマスターする。

④ ネットワークの有効活用

多様な企業等との**協働事業**で様々な問題を解決することが可能になる地域社会の創造を目指す。

⑤ いわきに**ジオパーク誘致活動**

ジオパークとは、「大地の公園」で地域の魅力を知り、素晴らしさを知ってもらい地球・自然の環境保護と大地とともに楽しむ活動です。地域の大きな環境保護の活動を進めていきたい。

活動紹介

1. 鳴き砂海岸の清掃活動

年2～3回程度会員中心に海岸の清掃活動を実施している。

2. 海岸でのイベントの開催

トヨタと協賛（トヨタソーシャルフェス）・海岸清掃、鳴き砂・放射線量調査、砂の像づくり、砂遊び等を行っている。

3. 砂絵教室の開催

鳴き砂に着色して、砂絵を表現することで、当会の地味な活動に新たな風を吹き込んだ。市内の公民館・集会所やイベント等で開催、月に1～2回程度実施している。

4. 学校等での出前講座の実施

これまで、四倉小学校、海星高校での総合習の一環として、鳴き砂講座を実施している。

5. いわき駅前でのイベント開催

今年で3回目「いわきプラージュ」

福島第一原発事故後、屋外で遊べなかった子供たちに砂場を提供。いわき駅南側・多目的スペースに砂10m³を搬入し『砂あそび場・砂像づくり・砂絵教室・鳴き砂体験』を3日間実施。2日目には、高校生によるフラダンスも披露した。

平成30年度 3,500人

平成29年度 3,169人

平成28年度 2,648人



終了後、砂を市内幼稚園・保育所に無料配布。

6. その他

下記の団体との良好な関係・協働している。

NPO法人福島SAND－STORY

NPO法人いわき環境研究室



2018/9/7いわきプラージュで遊ぶ幼稚園児



2018/9/9 いわきプラージュ砂像



2018/7/21小川高萩公民館砂絵教室

地域、住民、ボランティア、 参加者の反応や変化

NPOセミナーの参加

組織運営の知識を得ることができ、自団体の基盤強化に役立てたい。

ボランティア参加者の反応

短大生、高校生、中学生に参加して頂き、我々の活動に共鳴して頂き、今後の協働を約してくれました。

NPOのつどい

普段接点のない地域、他分野との交流で今までと違った視点で自団体の活動を分析することができる。

企業等のマッチング事業参加

企業との接点がないので、このようなマッチング会に積極的に参加し、プレゼンすることで、団体の成長を目指す。

いわきプラージュ参加者の声

子どもが楽しめた・毎年来ている
鳴き砂を身近に感じたなどが 71.0%
大人も参加したかった 5.7%
砂について説明欲しかった 5.7%
など概ね好評であった。



2018いわきプラージュ 短大生が作った砂像

協働に向けて

活動・組織での悩み困っていること

(1) 人材不足や資金不足などの問題がある

砂浜の環境保全をするために、NPOとして活動しているが、その目的を完遂しているとは言い難い。

① 専門知識の人材不足

人材育成や資金調達・組織マネジメントについての専門知識のある人材が不足している。

② 広報力不足

NPOのつどいや市民活動フェスなど市民におけるイベントの際に、十分な広報がされていない。

③ 情報発信力の不足

WEBやSNSによる活動などの情報発信について、テクニカルな知識や情報が不足している。現に当会はホームページがダウンしている状態が2年ほど経過している。

(2) 年間を通しての事業を模索

現在の企業との協働事業は、1日の日程で終了してしまう。持続性がない。

→ 年間を通した長いスパンの事業を模索したい。

企業と協働したいこと サポートしてほしいこと

(1) 広報協力

企業の営業ネットワークや各地の支店営業所にて、NPOのイベントやボランティア募集、寄付のお願いの告知などの広報の協力をお願いしたい。

(2) 人材提供

① 会員の年齢が高齢化している為、体力面でのサポートがほしい。

② IT関連の知力不足を痛感しており、その面での協力・協働を頂きたい。

環境汚染に弱い鳴き砂

花崗岩が400万年以上の気の遠くなるような時間をかけて風化、砂の中に65%以上の石英が残って鳴き砂になった地球の贈り物「鳴き砂」は、生活排水、化学物質などの環境汚染により、減少してしまいます。より多くの人たちが、「鳴き砂」を保存していく必要性を自覚し、保存活動を一緒に行動できると、効果は飛躍的に進んでいくものと期待します。

企業に向けてメッセージ

地域の社会的課題解決のために活動するNPO



地域の社会貢献活動・環境保護活動を実施する企業

○今すぐには協働することは難しいかもしれませんが、少しずつ接点を持つことで、徐々に信頼関係を築き、やがては、みんなが幸せになる地域社会の創造に貢献できる協働事業として実施できると信じています。

○『NPO法人いわき鳴き砂を守る会』は、NPOと企業との接点を可能な限り多く作っていきたいと考えております。

○企業の皆様には今後とも

ご理解とそしてご協力をどうぞよろしくお願い致します。